

1 修士論文審査基準

(1) テーマの選定及び目的の適切性

- ① 関連する国内外の主要な先行研究を網羅し、正しく理解できているか。
- ② 先行研究の理解を踏まえて、ユニークで学問的に重要な目的が導かれているか。
- ③ 目的が現代社会における重要な問題を扱い、臨床心理学的な意味の理解や適用の促進が期待できるか。

(2) 計画・方法の適切性

- ① 目的に対応した解答が得られる計画がなされているか。
- ② 実験や調査など、一般化可能な計画が用いられているか。
- ③ 計画された方法が正しく実施されているか。

(3) データ分析・処理の適切性

- ① 研究計画に対応した統計的分析が用いられているか。
- ② 統計学的に正しい処理が行われているか。

(4) 書式・論理構成の適切性

- ① 日本心理学会などの関連学会で定められている執筆要項に準拠しているか。
- ② 得られたデータと統計的検定を踏まえた議論がなされているか。
- ③ 先行研究との関連性について妥当な議論がなされているか。

(5) 倫理の適切性

- ① 参加者に対する倫理的配慮がなされているか。
- ② 本文中に倫理的配慮についての言及が正しくなされているか。
- ③ 利益相反に違反していないか。

以上5項目について、別にループリックによる評価基準を定める。ただし、下位項目については複数
をひとつにまとめる場合がある。主査1名、副査2名がそれぞれループリックに基づいて以下の4段階
を目安として評価する。

優 3以下の審査項目が2つ以下でそれ以外は4である。

良 2以下の審査項目が2つ以下でそれ以外は3以上である。

可 1の審査項目が2つ以下でそれ以外は2以上である。

不可 1の審査項目が3以上ある。

2 修士論文最終試験実施要項

(1) 審査基準

- ① 口頭試験における評価対象は以下の点とする。

提出者による概要説明

ルーブリック評価において問題とされる内容についての質疑応答

提出者の理解度に関する内容についての質疑応答

② 口頭試験における評価

前項に定める5項目について、主査及び副査がそれぞれ4段階で評価する。

(2) 修士論文最終評価

主査及び副査は、1による修士論文の評価、2による口頭試験の評価を踏まえて、合議によって以下の4段階で最終評価を定める。

優 修士論文として十分な内容を持ち、口頭試験においても十分な理解を示した。

良 修士論文として十分な内容を持っているが、口頭試験において理解不足が見られた。

可 修士論文として一定水準の内容を持ち、口頭試験で一定以上の理解が認められた。

不可 修士論文の評価で不可と判定された、又は修士論文として一定以上の水準の内容は含まれているが、口頭試験で理解が明らかに不足していると認められた。

附 則

この審査基準及び最終試験実施要項は平成26年12月9日から施行する。

附 則

この審査基準及び最終試験実施要項は、令和4年4月1日から施行する。

1 修士論文審査基準

(1) 題目や目的の適切性について

- ① 問題を意識し、目的や目標を明確にしているか。
- ② 題目・目的は、論文内容を反映されているか。

(2) 先行研究の吟味について

- ① 先行研究の整理と問題設定は適切になされているか。
- ② 論文の独創性(originality)は、明確に記述されているか。

(3) 研究方法の選択・実行の適切性について

- ① 研究方法の選択が適切になされているか。
- ② 研究対象の選定が適切になされているか。

(4) 問題解明の的確さについて

- ① 選択した研究対象と方法に対応した分析がなされているか。
- ② 研究成果及び先行研究を踏まえた考察がなされているか。
- ③ 今後の研究課題が適切に記述されているか。

(5) 論文の展開の適切性について

- ① 論文内容は論理的に構成されているか。
- ② 論理構成に一貫性はあるか。

(6) 表示の適切性について

- ① 注記は適切か。
- ② 誤字や脱字がないか。
- ③ 参考・引用文献の表示は適切か。
- ④ 字数は適切か。
- ⑤ 図表は見やすいか。

(7) 倫理について

- ① 研究方法が倫理上問題にならないかが検討・吟味されているか。
- ② 研究対象や被験者に関する個人情報やその処理について十分配慮されているか。
- ③ 研究実施に際して、十分な説明と了解が得られているか。

修士論文の評価は上記を勘案し、主に独創性、有用性、精緻性の3つの視点から行い、以下の4段階とする。

優 優れた修士論文である。

良 良好な修士論文である。

可 いくつかの問題点はあるが、修士論文として認定できる。

不可 修士論文としての水準に達していない。

2 修士論文最終試験実施要項

(1) 提出された修士論文の内容についての質疑応答。

(2) 論文作成にあたって、どのような研究を行ったかについての質疑応答。

(修士論文に関連する研究についての知識は十分であるか。)

(3) 研究成果のさらなる発展の可能性についての質疑応答。

上記の観点から最終試験を行い、以下の4段階で評価する。

優 優れた研究が行われ、独力でさらなる研究の発展が期待できる。

良 良好な研究が行われたと認められる。

可 いくつかの問題点はあるが、一定水準の研究が行われたと認められる。

不可 適切な研究が行われたとは言い難い。

なお、修士論文審査及び最終試験のいずれか又は両者が不可であれば、不可とする。

附 則

この審査基準及び最終試験実施要項は平成26年12月9日から施行する。